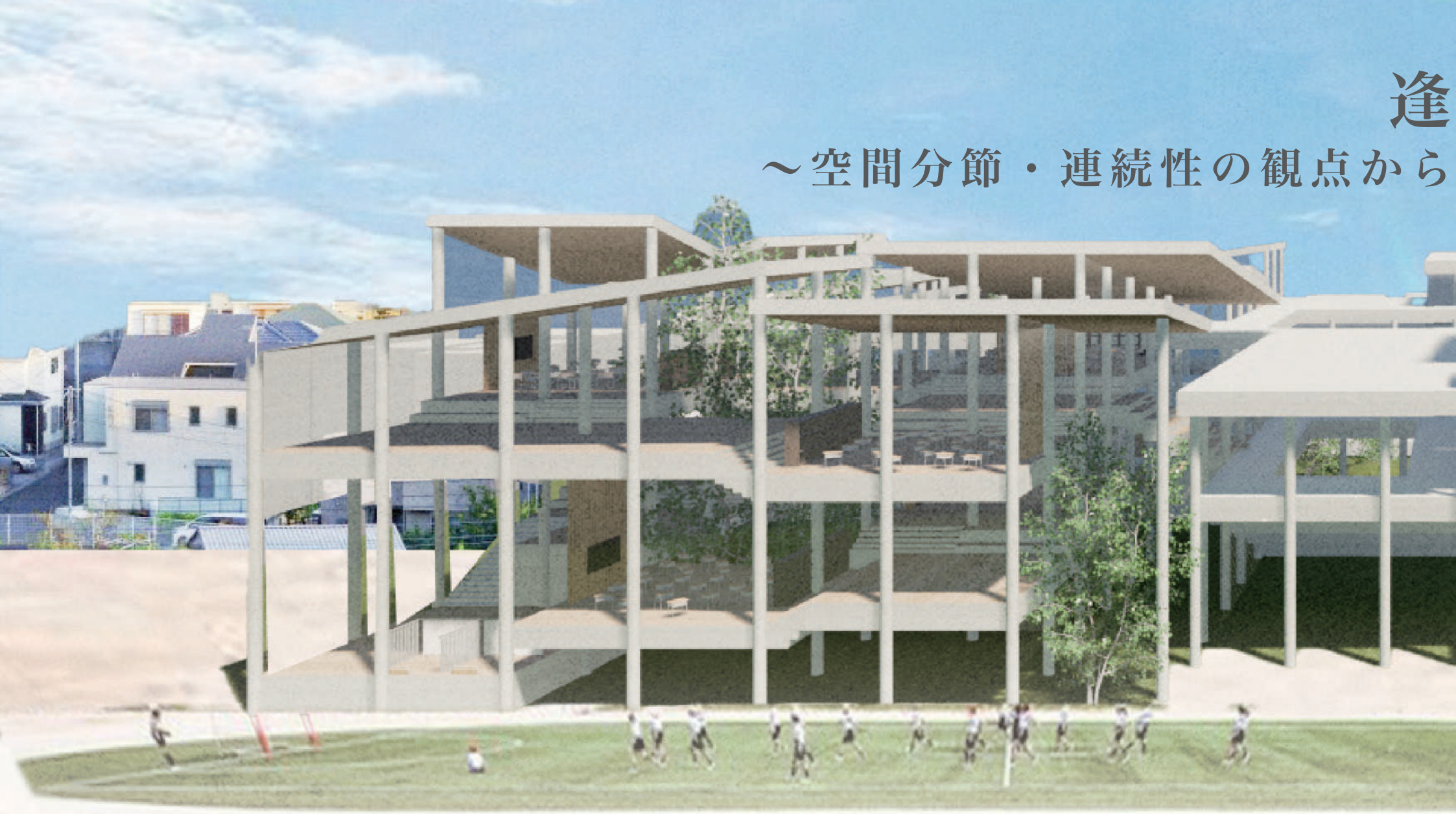
逢
～空間分節・連続性の観点から



1. 背景

今日の都市空間では、インターナショナルスタイルやモダン様式などの影響により、画一化されている。四角い箱をただ壁という媒体で空間を仕切ることは、空間を分節する建築操作を蔑ろにしているのではないだろうか。

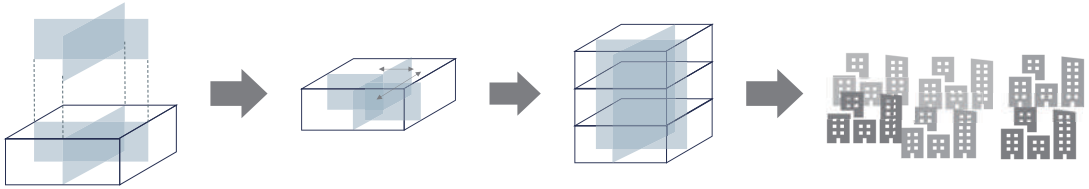
2. 目的

空間の分節・連続性の観点から都市空間の再構築を目的とする。
本研究における用語の定義を下記に示す通りにする。

縁

新しい都市空間を再構築する～

6. 図面



用語の定義

空間分節・・・空間のファンクションやケースによって空間を分けること

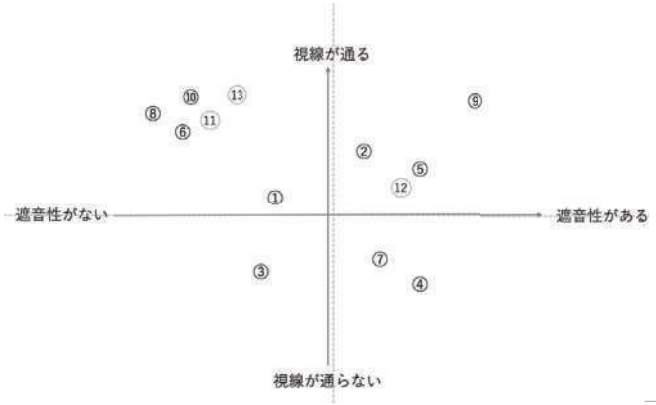
空間の連続性・・・空気が完全に遮断されていないこと

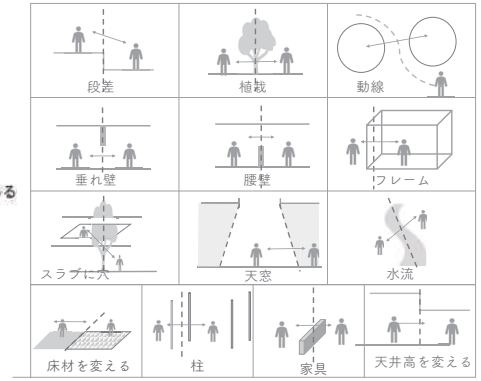
3. 空間分節のボキャブラリー

新建築などの１３の設計事例から、連続性にある空間分節手法のボキャブラリーを１３個定義した。そのボキャブラリーを、「視界の通り」と「遮音性」に着目しフローチャートに示した。この結果からわかる通り空気を遮断しないため、連続性のある空間分節は遮音性が低くなる。よって、他の建築操作で補う必要がある。

いくつかの文献を元に遮音を高める方法を考える。大月による論文では新建築の事例から音的操作の分類をしたのちに、そこから建築操作の抽出を行なっている。このことから(ii)音の遮音をデザインへ活かす項目が有効であることがわかった。

また森林は音を減衰させると同時に自然のゆらぎの音は不快な騒音と中和する働きを持っている。このことから、(iv)音を発生させる項目からもいくつか用いることができると考えた。

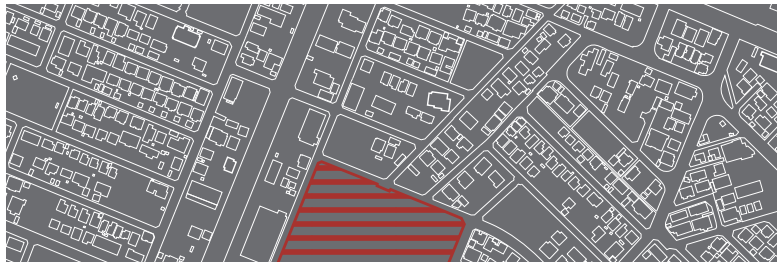




引用：「音を構成要素と捉えた建築の提案–「新建築」作品における音に関する建築的操作分析を通して–」/ 大月彩未

4. 敷地

設計敷地は三重県鈴鹿市に鈴鹿市立桜島小学校の敷地とする。桜島小学校の校区には閑静な住宅街が多く建ち並び、公園が多い。しかし、多世代交流を行える施設や空間がない。従って、地域と小学校の連続性や遮音性が大きな課題となり、本テーマを最大限提唱できる本敷地を今回の敷地とする。

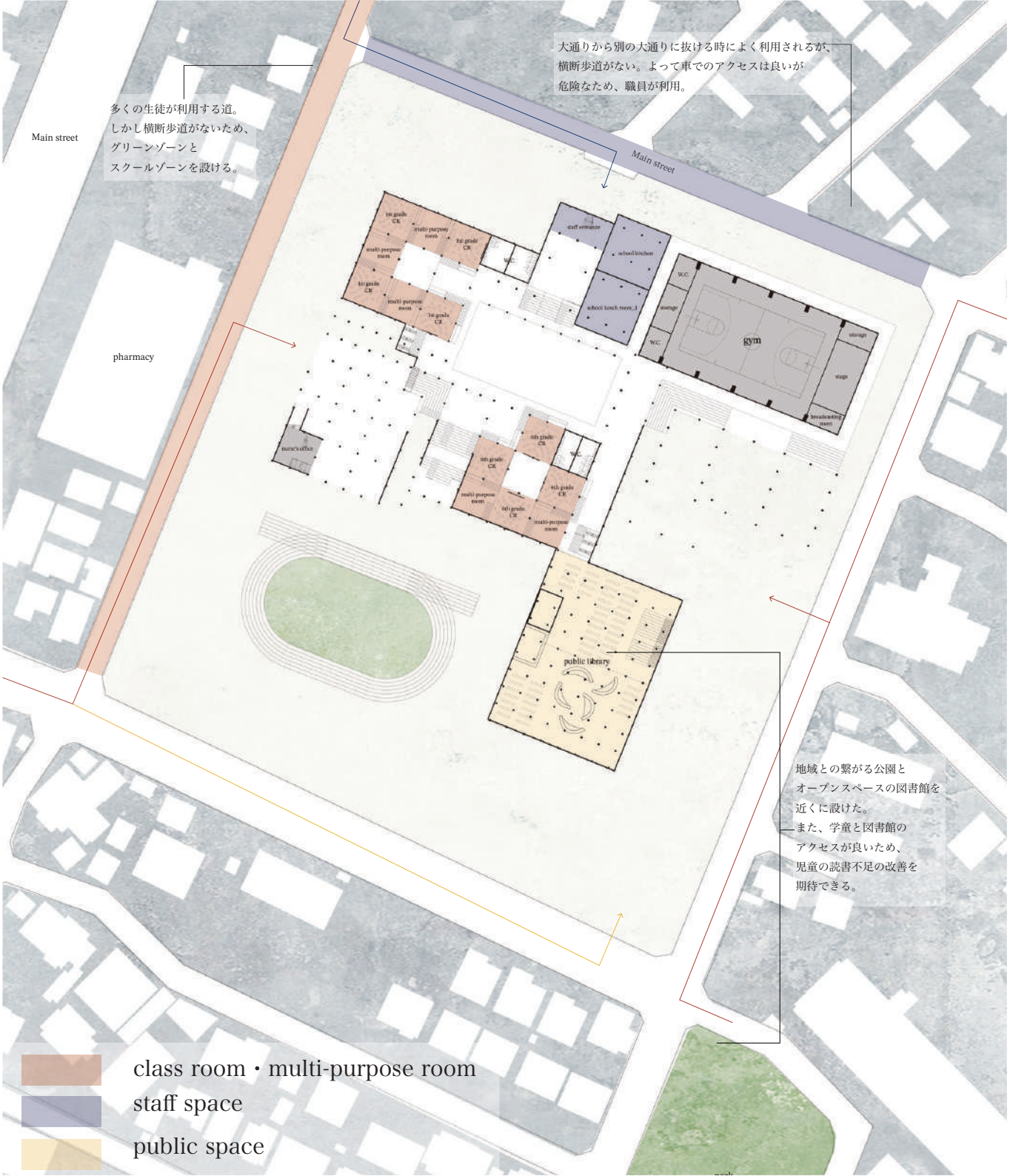


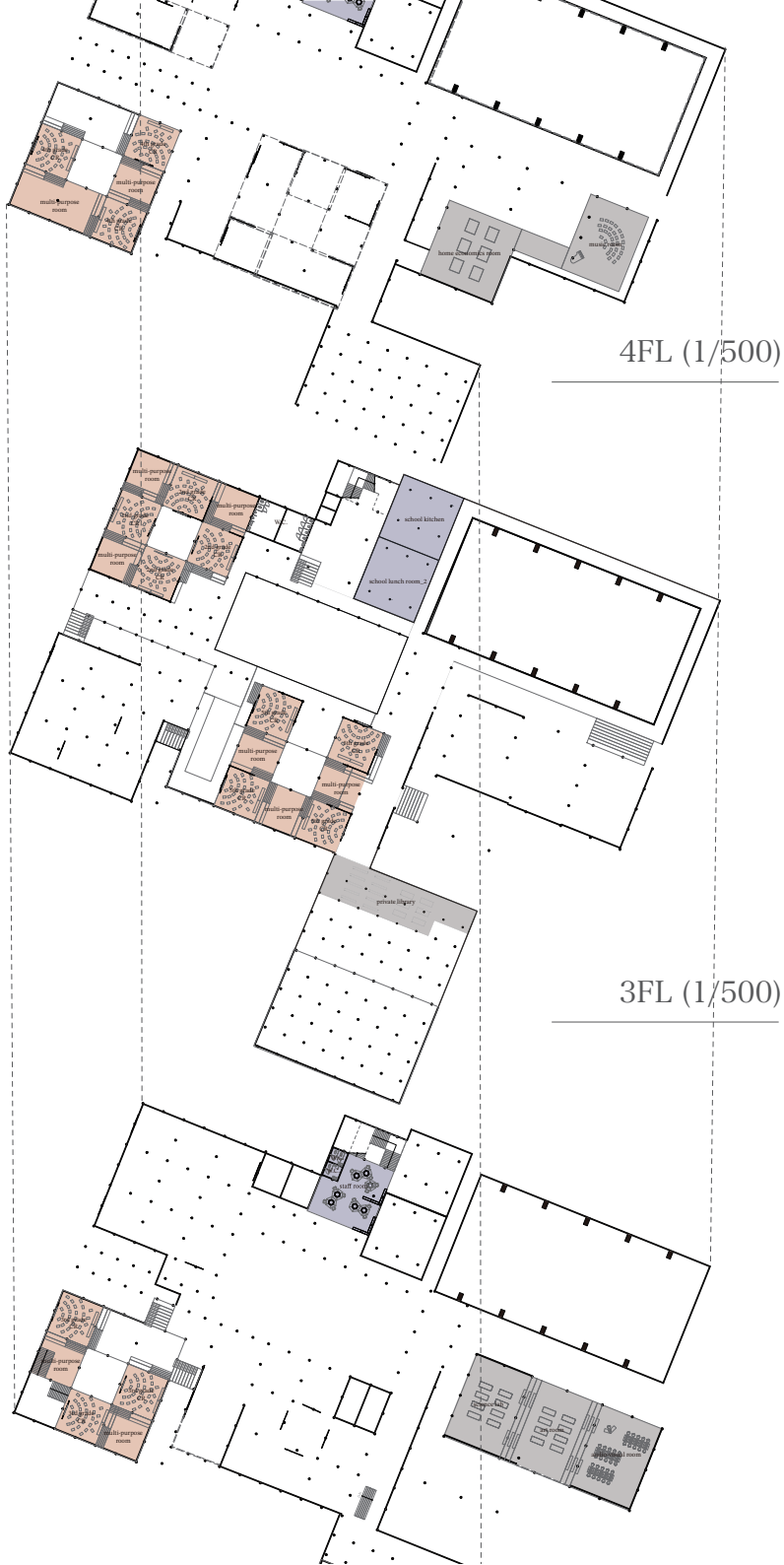
5. 設計

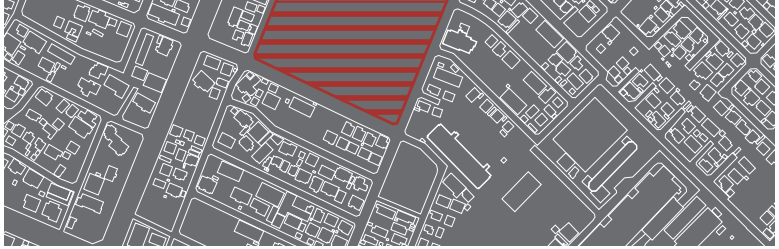
桜島小学校区では、田んぼが埋められて新築が建つなど、緑が街から消えている傾向にある。そして、子ども会が行われなくなるなど地域の繋がりが薄くなってきている。

よって本設計では、空間も人との繋がりも、地域との繋がりも、緑とも、何かしらと繋がるということをコンセプトとした。

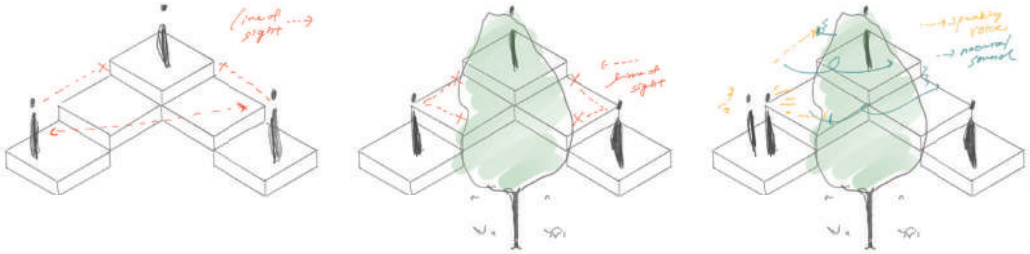
段差で視線を外してから、植栽を植える。そうすることによって連続性は保ちながらも視線は通さない。また、自然のゆらぎの音は騒音と中和することから遮音の性能も期待できる。完全には遮音しないため、職員は児童の様子を視覚に加え、聴覚でも確認することができる。児童を確認する知覚が増えることで安全性も増すと考えることができる。

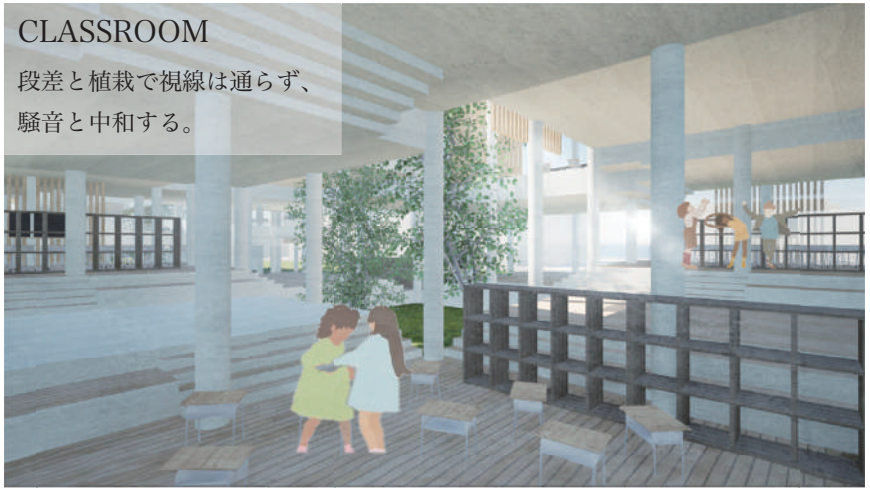

Main street
多くの生徒が利用する道。
しかし横断歩道がないため、
グリーンゾーンと
スクールゾーンを設ける。
大通りから別の大通りに抜ける時によく利用されるが、
横断歩道がない。よって車でのアクセスは良いが
危険なため、職員が利用。
Main street
pharmacy
gym
public library
地域との繋がる公園と
オープンスペースの図書館を
近くに設けた。
また、学童と図書館の
アクセスが良いため、
児童の読書不足の改善を
期待できる。
class room・multi-purpose room
staff space
public space

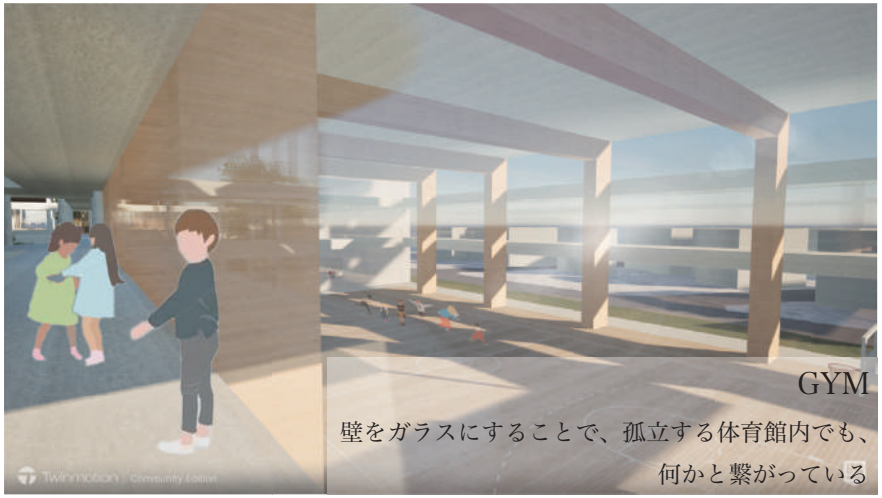

4FL (1/500)
3FL (1/500)

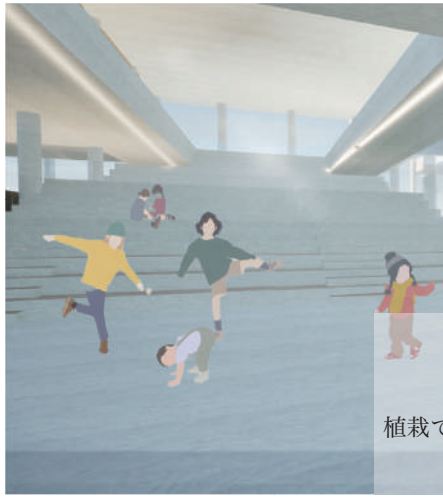


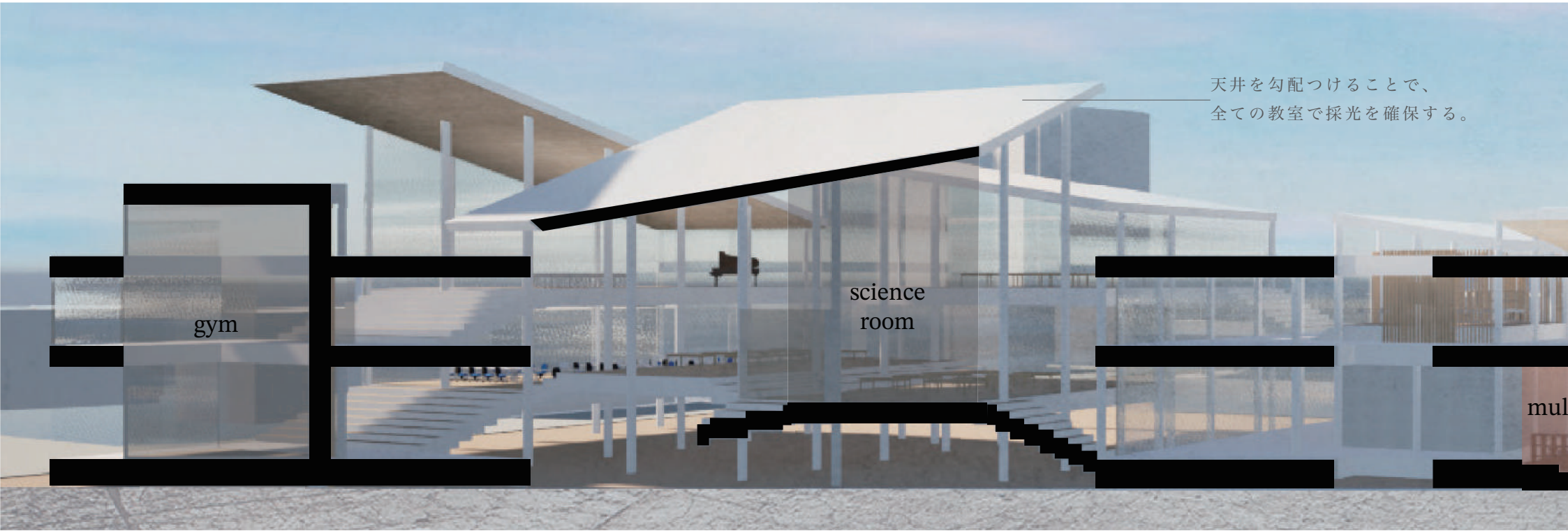
oval residence
park

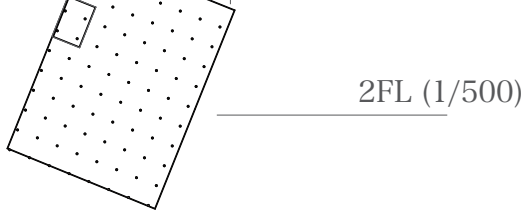

line of sight
line of sight
speaking voice
normal sound


CLASSROOM
段差と植栽で視線は通らず、
騒音と中和する。


GYM
壁をガラスにすることで、孤立する体育館内でも、
何かと繋がっている


植栽で


天井を勾配つけることで、
全ての教室で採光を確保する。
gym
science
room
mul

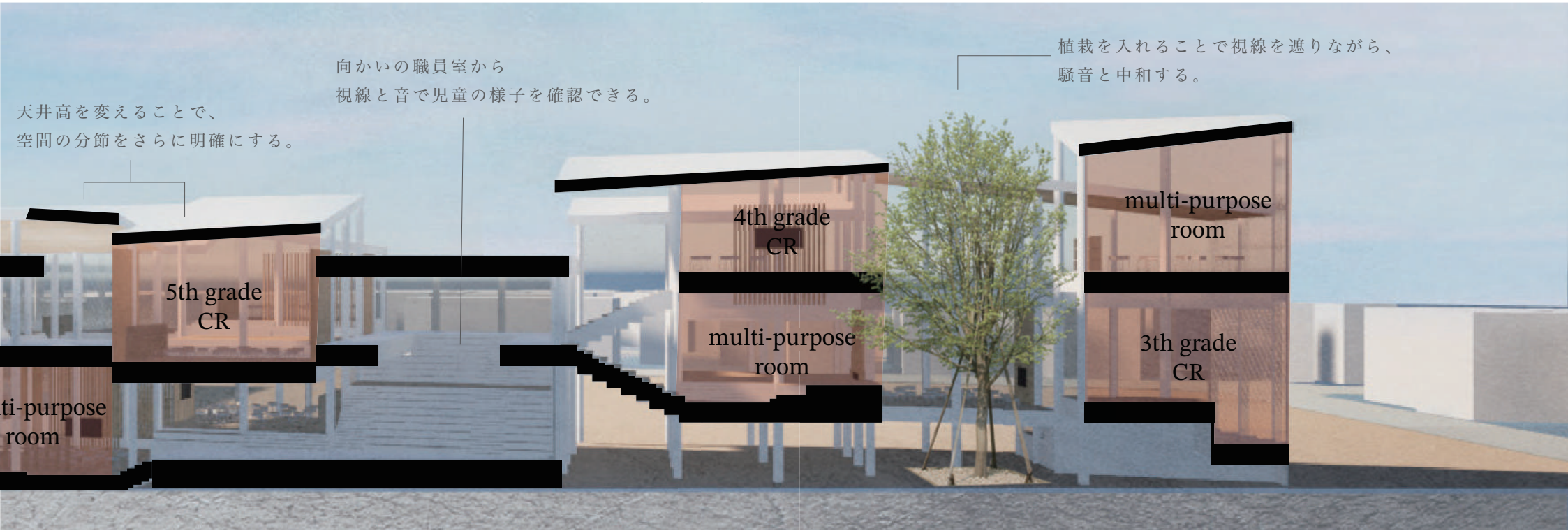


GRAND STAIRCASE

職員室前の大階段。
で目が通らなくても、音が聞こえるため、
安全である。

LIBRARY

鈴鹿市の図書館は全国的に見ても狭いため、
図書館を地域開放した。

TYPE OF SPECIAL CLASS ROOM

教室と天井高を変えることによって、
特別感を演出している。